

---

# 調査の概要

# ■ 第 1 章 調査の概要

## 1 目的

県民の歯科保健水準の向上を図るため、当県における歯科保健の状況を調査把握するとともに、今日まで行われてきた歯科保健事業の効果について評価・検討を行い、もって今後の歯科保健対策の推進に必要な基礎資料を得ることを目的とする。

## 2 調査対象

厚生省が行う歯科疾患実態調査により指定された地区及び県が独自に平成 7 年国勢調査地区から無作為抽出により選定した地区を合わせた 23 地区で、地区内の満 1 歳以上（平成 11 年 11 月 1 日現在）の世帯員すべてを調査対象者とした。対象者数は 3561 人であった。

### (1) 口腔診査受診者

調査対象者のうち、口腔診査を受診した者は、男 531 人、女 727 人、計 1258 人で受診率は 35.3% であった（表 1-1）。

表 1-1 口腔診査 被調査者数（性・年齢階級別）

年齢階級	男			女			総数		
	対象者数	受診者数	受診率	対象者数	受診者数	受診率	対象者数	受診者数	受診率
1-4	57	31	54.4	53	32	60.4	110	63	57.3
5-9	99	46	46.5	93	47	50.5	192	93	48.4
10-14	87	27	31.0	101	38	37.6	188	65	34.6
15-19	92	18	19.6	98	25	25.5	190	43	22.6
20-24	109	7	6.4	111	22	19.8	220	29	13.2
25-29	98	15	15.3	112	32	28.6	210	47	22.4
30-34	97	16	16.5	82	30	36.6	179	46	25.7
35-39	96	22	22.9	103	44	42.7	199	66	33.2
40-44	91	24	26.4	94	35	37.2	185	59	31.9
45-49	159	43	27.0	141	48	34.0	300	91	30.3
50-54	151	35	23.2	145	51	35.2	296	86	29.1
55-59	128	44	34.4	122	60	49.2	250	104	41.6
60-64	118	56	47.5	123	65	52.8	241	121	50.2
65-69	100	45	45.0	121	69	57.0	221	114	51.6
70-74	99	57	57.6	128	63	49.2	227	120	52.9
75-79	68	27	39.7	104	39	37.5	172	66	38.4
80-	55	18	32.7	126	27	21.4	181	45	24.9
総数	1704	531	31.2	1857	727	39.1	3561	1258	35.3

### (2) 歯科保健アンケート回答者

調査対象者のうち、歯科保健アンケート（質問紙）に回答した者は、男 1397 人、女 1566 人、計 2963 人で回答率は 83.2% であった（表 1-2）。

表 1 - 2 歯科保健アンケート 被調査者数（性・年齢階級別）

年齢階級	男			女			総数		
	対象者数	回答者数	回答率	対象者数	回答者数	回答率	対象者数	回答者数	回答率
1-4	57	55	96.5	53	45	84.9	110	100	90.9
5-9	99	82	82.8	93	79	84.9	192	161	83.9
10-14	87	76	87.4	101	88	87.1	188	164	87.2
15-19	92	74	80.4	98	83	84.7	190	157	82.6
20-24	109	71	65.1	111	79	71.2	220	150	68.2
25-29	98	66	67.3	112	82	73.2	210	148	70.5
30-34	97	76	78.4	82	67	81.7	179	143	79.9
35-39	96	74	77.1	103	87	84.5	199	161	80.9
40-44	91	72	79.1	94	81	86.2	185	153	82.7
45-49	159	138	86.8	141	122	86.5	300	260	86.7
50-54	151	119	78.8	145	121	83.4	296	240	81.1
55-59	128	110	85.9	122	106	86.9	250	216	86.4
60-64	118	100	84.7	123	111	90.2	241	211	87.6
65-69	100	92	92.0	121	111	91.7	221	203	91.9
70-74	99	92	92.9	128	117	91.4	227	209	92.1
75-79	68	57	83.8	104	88	84.6	172	145	84.3
80-	55	43	78.2	126	99	78.6	181	142	78.5
総数	1704	1397	82.0	1857	1566	84.3	3561	2963	83.2

### 3 調査期日

平成11年10月21日から11月30日の間に各地区任意の1日を選定して実施した。

### 4 調査項目

主な調査項目は、次のとおりであった。

- (1) 現在歯の状況
- (2) 喪失歯の状況及びその補綴状況
- (3) 歯肉の状況
- (4) 歯みがきの実施状況
- (5) フッ化物歯面塗布の状況
- (6) 歯科保健に関する意識の状況

### 5 調査方法

調査は、厚生省歯科疾患実態調査必携を参考に作成した「第4回県民歯科疾患実態調査必携」に基づき、調査対象地区の保健所長が市町村長の協力を得て実施した。

#### (1) 調査員

口腔診査担当者（歯科医師）、診査記録担当者、その他の補助担当者及び調査票配布・回収担当者

#### (2) 調査票

調査票は下記の2つの様式を用いた。

ア 県第2号様式：県民歯科疾患実態調査票（口腔診査）

イ 第3号様式：県民歯科疾患実態調査票（歯科保健アンケート調査）

### (3) 調査の流れ

#### ア 調査票の配布

調査員が、調査実施日以前に、県民歯科疾患実態調査票を調査対象者に配布した。

#### イ アンケート調査の記入

調査対象者は、調査票のうち、第3号様式（歯科保健アンケート調査）について事前に記入した。

#### ウ 口腔診査の実施

性別、生年月日、歯ブラシの使用状況、フッ化物の塗布状況（14歳以下）を問診した。ついで歯科医師による口腔診査を行い、その結果を調査票に記入した。

#### エ 口腔診査非受診者の調査票の回収

口腔診査に参加しなかった者の調査票については、別途、調査員が回収した。

## 6 口腔診査の基準

次に掲げる基準にしたがって口腔診査を実施した。

### (1) 現在歯

現在歯は、ア 健全歯 イ 未処置歯及びウ 処置歯の3種に分類する。現在歯とは歯の全部又は一部が口腔に現れているものをいう。過剰歯は含めないこととし、癒合歯は1歯として取り扱い、その場合の歯種名は上位歯種名をもってこれにあてる。（例：乳中切歯と乳側切歯の癒合歯は、乳中切歯とする。）

#### ア 健全歯

健全歯とはう蝕あるいは歯科的処置の認められないもの（以下に記す未処置歯及び処置歯の項に該当しないもの）をいう。

咬耗、磨耗、斑状歯、外傷、酸蝕症、発育不全、歯槽膿漏、形態異常等の歯であっても、それらにう蝕のないものは健全歯とする。

注）歯質の変化がなく、単に小窩裂溝の内容物だけが黒褐色に着色しているもの、平滑面で表面的に淡褐色の着色を認めるが歯質は透明で触診しても滑沢なもの、またエナメル質形成不全と考えられるものなどは、すべて健全歯とする。

なお、健全歯を予防填塞の有無により、次のように分類する。

#### (ア) 健全歯 ... コード：/

予防てん塞（フィッシャー・シーラント）がされていない歯

#### (イ) 健全歯（シーラント） ... コード：T

予防てん塞（フィッシャー・シーラント）がされている歯

注）予防てん塞と処置歯との鑑別を行う場合、一般的に予防填塞はレンジ充填に比べ色調が異なること  
填塞物の辺縁の形態が裂溝状で細く、不揃いなこと  
填塞物表面の粗ざう感が少ないこと  
が多いことを考慮する。

#### イ 未処置歯 ... コード：C

「別に示す基準に該当するう蝕」の基準（厚生省歯科疾患実態調査）により、診査する。

「別に示す基準に該当するう蝕歯」とは、

- ・明らかなう窩
- ・エナメル質下の脱灰、浸蝕
- ・軟化底

が確認できる小窩裂溝及び平滑面のう蝕病変とする。

なお、確認のためCPIプローブを用いることが望ましい。

#### ウ 処置歯

処置歯とは歯の一部又は全部に充てん、クラウン等を施しているものをいう。

歯周炎の固定装置、矯正装置、矯正後の保定装置、保隙装置及び骨折副木装置は含まれない。

治療が完了していない歯並びに処置歯でも2次的う蝕又は他の歯面等で未処置う蝕が認められる場合、未処置歯として取り扱う。

予防てん塞（フィッシャー・シーラント）の施してある歯については、可能な限り問診してう蝕のない歯に予防てん塞を施したものは健全歯Tとするが、明らかにう蝕のあった歯にてん塞したものは処置歯とする。

#### (ア) 充てん歯 ... コード：F

セメント充てん、レジン充てん、アマルガム充てん、ポーセレンインレー、合金（インレー、アンレー及び3/4冠を含む）等により、充てん又は一部歯冠修復しているものはこれに含める。架工義歯の支台歯であっても、一部修復しているものはこれに含める。

#### (イ) クラウン ... コード：K

全部鑄造冠、陶材焼付鑄造冠、レジン前装鑄造冠、ジャケットクラウン等、歯冠のすべてを修復しているものをいい、架工義歯の支台歯であってもこれに含める。

#### (2) 喪失歯

抜去又は脱落により喪失した永久歯をいう。ただし、智歯は含めない。

注) 受診者の年齢を考慮し、未萌出歯を喪失歯と誤診しないこと。  
乳歯は診査対象としない。  
インプラントのある部分は喪失歯とする。

#### ア 喪失歯（補綴未実施） ... コード：X

喪失歯の部位に補綴がされていないもの

#### イ 喪失歯（床義歯で補綴） ... コード：D

喪失歯の部位が床義歯により補綴されているもの

#### ウ 喪失歯（ポンティック） ... コード：P

喪失歯の部位が架工義歯のポンティックにより補綴されているもの

#### (3) 補綴の状況

永久歯の欠損部について、補綴物装着の有無を調査し、補綴処置の状況について該当する項目に印をつける。

また、部分床義歯及び全部床義歯は日常使用しているものであれば、診査時に装着しなくてもよいが、一部破損していたりあるいは欠損部の状況と一致していないものは補綴されていないものとする。なお、乳歯の義歯・保隙装置は含まない。

補綴完了 : 喪失歯のある部位が完全に補綴処置を完了しているもの

補綴一部未実施 : 喪失歯のある部位の一部は補綴されているが、一部は補綴されていないもの

補綴未実施 : 喪失歯が存在しており、全く架工義歯や床義歯が施されていないもの

補綴不要 : 喪失歯は存在するが、部位によって、又は状態によっては補綴処置が必ずしも必要と考えられないもの

例) 第2大臼歯のみが喪失している場合

(4) 歯肉の状況（5歳以上）

永久歯列について	7 6	1	6 7
	7 6	1	6 7

の各歯の歯肉の状況（20歳未満の場合、第2大臼歯を除外）をWHOのCPI（Community Periodontal Index, 地域歯周疾患指数）によりCPIプローブを用いて上顎は頬側面、下顎は舌側面に(注)ついて以下の基準で診査し、最高コード値を記入する。ただし、同顎、同側の第1、第2大臼歯については、両歯のうち最高点を記入する。

0：歯肉に炎症の所見が認められない。

1：プロービング後に出血が認められる。

2：歯石の沈着（ただし、CPIプローブの黒い部分がすべてみえる）

3：ポケットの深さが4mm以上6mm未満

（CPIプローブの黒い部分が歯肉縁にかかっている）

4：ポケットの深さが6mm以上（CPIプローブの黒い部分がみえない）

X：対象歯がない。

5～14歳の者の場合プロービングは行うが、ポケットの深さの記録は行わないものとする。

対象中切歯の欠損により診査が不能な際、反対側同名歯を診査する。

プロービングは、CPIプローブ先端の球を歯の表面に沿って滑らせる程度の軽い力で操作し、遠心の接触点直下から、やさしく上下に動かしながら近心接触点直下まで移動させる。

注）通常は、頬側面・舌側面の双方を診査するが、厚生省歯科疾患実態調査の基準に合わせてるため、片側について診査する。

7 用語の定義

なお、本報告書に示した主な数値等は次の方法により算出した。

(1) むし歯有病者率

$$ア \quad (\text{乳 歯}) \text{ むし歯有病者 (df 者) 率 (\%)} = \frac{\text{乳歯のむし歯のある者の数}}{\text{被検査者数}} \times 100$$

注) むし歯のある者の数：未処置歯、処置歯のいずれかを1本以上有する者の数

被検査者数：乳歯の有無にかかわらず検査を受けた者の数（1歳以上15歳未満）

$$イ \quad (\text{永久歯}) \text{ むし歯有病者 (DMF 者) 率 (\%)} = \frac{\text{永久歯のむし歯のある者の数}}{\text{被検査者数}} \times 100$$

注) むし歯のある者の数：未処置歯、処置歯、喪失歯のいずれかを1本以上有する者の数

被検査者数：永久歯の有無にかかわらず検査を受けた者の数（5歳以上）

(2) 1人平均むし歯数

$$ア \quad (\text{乳 歯}) \text{ d f t 指数 (歯数)} = \frac{\text{乳歯のむし歯数}}{\text{被検査者数}}$$

注) むし歯数：未処置歯、処置歯の総本数

被検査者数：前記(1)-アに同じ

$$イ \quad (\text{永久歯}) \text{ D M F T 指数 (歯数)} = \frac{\text{永久歯のむし歯数}}{\text{被検査者数}}$$

注) むし歯数：未処置歯、処置歯、喪失歯の総本数

被検査者数：前記(1)-イに同じ

なお、DMF者及びDMFTにおける喪失歯には、本来、むし歯が原因によるもののみを含めることとされているが、本書ではその原因を問わず喪失歯をすべてむし歯として扱った。

(3) 1人平均現在歯数

$$ア \quad (\text{永久歯}) \text{ 1人平均現在歯数 (本)} = \frac{\text{永久歯の現在歯数}}{\text{被検査者数}}$$

注) 現在歯数：健全歯、未処置歯、処置歯の総本数  
被検査者数：前記(1)-イに同じ

(4) 喪失歯所有者率及び1人平均喪失歯数

$$ア \quad (\text{永久歯}) \text{ 喪失歯所有者率 (\%)} = \frac{\text{喪失歯のある者の数}}{\text{被検査者数}} \times 100$$

注) 喪失歯のある者の数：喪失歯を1本以上有する者の数  
被検査者数：前記(1)-イに同じ

$$イ \quad (\text{永久歯}) \text{ 1人平均喪失歯数 (本)} = \frac{\text{喪失歯の総本数}}{\text{被検査者数}}$$

注) 被検査者数：前記(1)-イに同じ

(5) 歯肉の状況

ア CPI最高コード

$$(\text{各コード毎}) \text{ 最高コードの者率 (\%)} = \frac{\text{各コード該当者数}}{\text{被検査者数}} \times 100$$

注) 各コード該当者：6分画に分け測定して得られたコードのうち、最高値を個人毎の最高コードとする。

被検査者数：診査対象となる分画を有する者(5歳以上)

イ CPI平均分画数

$$(\text{各コード毎}) \text{ 平均分画数} = \frac{\text{各コード該当分画数の合計}}{\text{被検査者数} \times 6}$$

注) 各コード該当分画数：0、1、2、3、4、Xの6種のコードについて、各コード毎に該当する分画の総数を集計する。

被検査者数：前記(5)-アに同じ

県民歯科疾患実態調査票 < 歯科保健アンケート調査 > 新潟県統計報告登録第11-23号

1・2ページを、あらかじめ自宅で、記入して下さい。

(あてはまるものを、 で囲み、生年月日は、年・月・日を記入してください。)

性別 ( 1 男・2 女 )	生年月日 ( 1 平成 2 昭和 3 大正 4 明治 ___年___月___日 )
----------------	---

1 次の質問にお答えください。

(1) 何分くらい歯をみがきますか。 ( 1 つだけ 印 )

1 . 1分以内	2 . 1 ~ 3分	3 . 3分以上	4 . 上下とも総入れ歯
----------	------------	----------	--------------

(2) この1年間に**健診**や**治療**を受けに歯科医院へ行ったことがありますか。

( 1 つだけ 印 )

1 はい	2 いいえ
------	-------

(3) **歯石**を歯科医院で、とってもらったことがありますか。

( 1 つだけ 印 )

1 定期的にとってもらっている
2 とってもらったことがあるが、定期的ではない
3 ない
4 わからない

(4) 歯科医院へはどのような場合に行きますか。

( 1 つだけ 印 )

1 気になるところがなくとも、定期的に行くようにしている
2 気になるところがあると、早めに行くようにしている
3 痛いなど、悪い症状があったら行く
4 痛いなど、悪い症状があっても行かない(行けない)
5 その他( )

(5) 歯科医院で、次の歯科保健**指導**を受けたことがありますか。

ア 歯みがき ( 1 つだけ 印 )
1 定期的を受けている 2 受けたことはあるが定期的ではない 3 いいえ
イ デンタルフロス(糸付きようじ等) ( 1 つだけ 印 )
1 定期的を受けている 2 受けたことはあるが定期的ではない 3 いいえ
ウ 歯間ブラシ ( 1 つだけ 印 )
1 定期的を受けている 2 受けたことはあるが定期的ではない 3 いいえ
エ フッ素入り歯磨き剤の使用 ( 1 つだけ 印 )
1 定期的を受けている 2 受けたことはあるが定期的ではない 3 いいえ

(6) むし歯や歯周病の予防のために、次のものを**使用**していますか。

ア デンタルフロス(糸つきようじ等)	1 はい	2 いいえ ( 1 つだけ 印 )
イ 歯間ブラシ	1 はい	2 いいえ ( 1 つだけ 印 )
ウ 歯磨き剤	1 はい	2 いいえ ( 1 つだけ 印 )
使用している場合 歯みがき剤名とコード番号 <sup>#1</sup> を記入してください ( 歯磨き剤名 : _____ 番号 <sup>#1</sup> : _____ ) #1 : 3 ページにあるコード票を見て記入してください。		

(7) 次のむし歯予防法の**経験**がありますか。保育所、幼稚園、学校で実施したのものも含まれます。

ア フッ素塗布	1 はい	2 いいえ ( 1 つだけ 印 )
イ フッ素洗口	1 はい	2 いいえ ( 1 つだけ 印 )
ウ シーラント <sup>#2</sup>	1 はい	2 いいえ ( 1 つだけ 印 )
#2 : 歯の溝を合成樹脂等でふさぎ、むし歯を予防する方法		

(裏面に続く)



2 **10歳以上**の方に、お聞きします。

(1) この**1年間**で歯や歯ぐきのことが原因で、以下に示す生活上の**困りごと**がありましたか。 (あてはまるものすべてに 印)

1	仕事・家事・学業・趣味などに支障があったことがある
2	よく眠れなかったことがある
3	おいしく食事ができなかったことがある
4	その他( )
5	とくになかった

(2) **現在**、歯や口の中に**悩みごと**はありますか。 (あてはまるものすべてに 印)

1	歯が痛んだり、しみたりする
2	歯みがきをすると、血がでる
3	口臭がある
4	歯ぐきがむずがゆく、歯が浮いた感じがする
5	歯ぐきが赤く腫れてぶよぶよする
6	固いものがかみにくい
7	歯並びやかみ合わせが気になる
8	顎の関節が痛い
9	その他( )
10	悩みごとはない

3 **20歳以上**の方に、お聞きします。

(1) あなたの口の中には**何本の歯**がありますか。  本 ... 最大32

下の絵を参考にして、本数を右の枠の中に書いてください。

なお、かぶせた歯(金歯・銀歯)、さし歯、根だけ残っている歯も本数に含めます。  
成人の歯の本数は、上あご16本、下あご16本の**合計32本**です。  
これには**親知らず4本**を含みます。

歯の絵

(2) **フッ素洗口**,あるいは**フッ素塗布**というむし歯予防をご存じですか。(1つだけ 印)

1	知っている	2	聞いたことはあるがよくわからない	3	知らない
---	-------	---	------------------	---	------

(3) **フッ素**によるむし歯予防についてどのようにお考えですか。(1つだけ 印)

1	むし歯予防に有益なものであると思う
2	むし歯予防に利用することには反対である
3	詳しいことはよくわからない
4	その他( )

**御協力ありがとうございました。**

---

## 調査結果の概要

## ■ 第 2 章 調査結果の概要

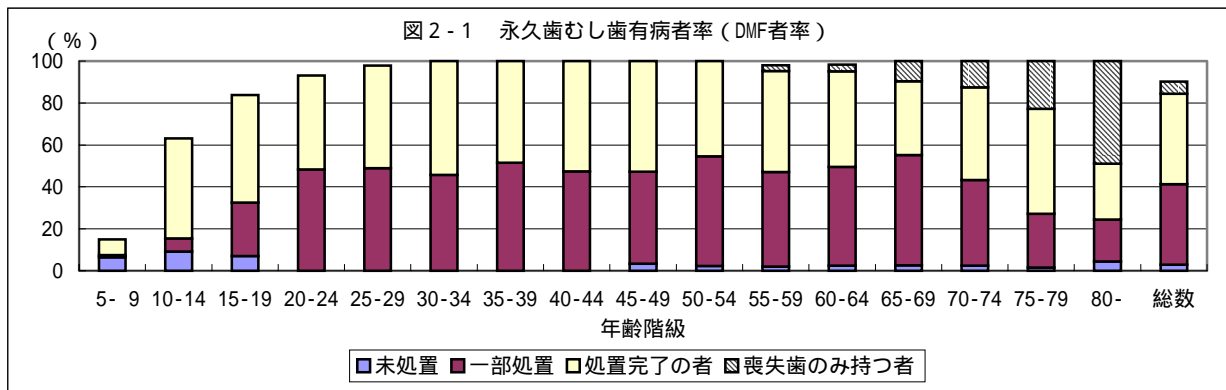
### 第 1 節 口腔診査

#### 1 永久歯の状況（5 歳以上）

##### (1) むし歯有病者率（DMF者率）

むし歯有病者率（DMF者率）は総数で90.2%であった。年齢階級別にみると5-9歳では15.1%である、10-14歳で63.1%となるなど義務教育期間に当たる時期に急増し、25歳以上では、すべての年齢層において100%またはそれに近い値を示していた（図2-1）

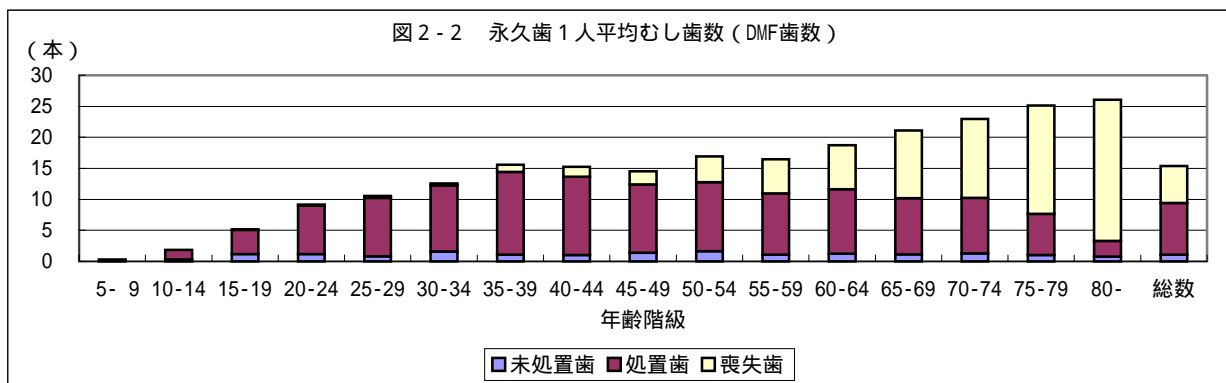
なお、未処置歯の診断基準が過去の調査とは異なるため、過去の調査との比較は行わなかった。



##### (2) 1 人平均むし歯数（DMF歯数）

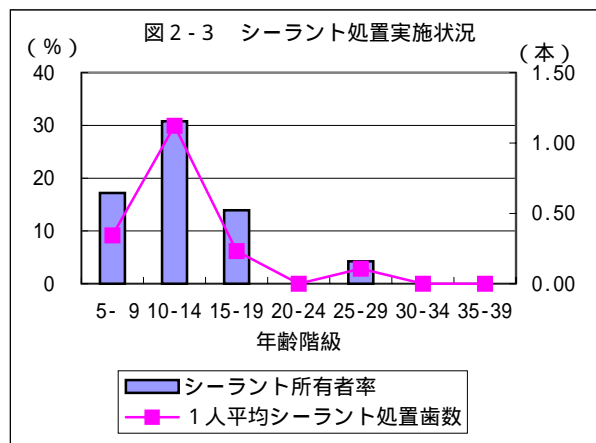
1 人平均むし歯数は、総数で15.38本であり、その内訳は、未処置歯1.07本、処置歯8.34本及び喪失歯5.96本であった。年齢階級別にみると、ほぼ、年齢階級が上がるにしたがい増加しており、特に60-64歳からは喪失歯の増加に伴い、急激に増加していた（図2-2）。

なお、未処置歯の診断基準が過去の調査とは異なるため、過去の調査との比較は行わなかった。



(3) シーラント処置実施状況

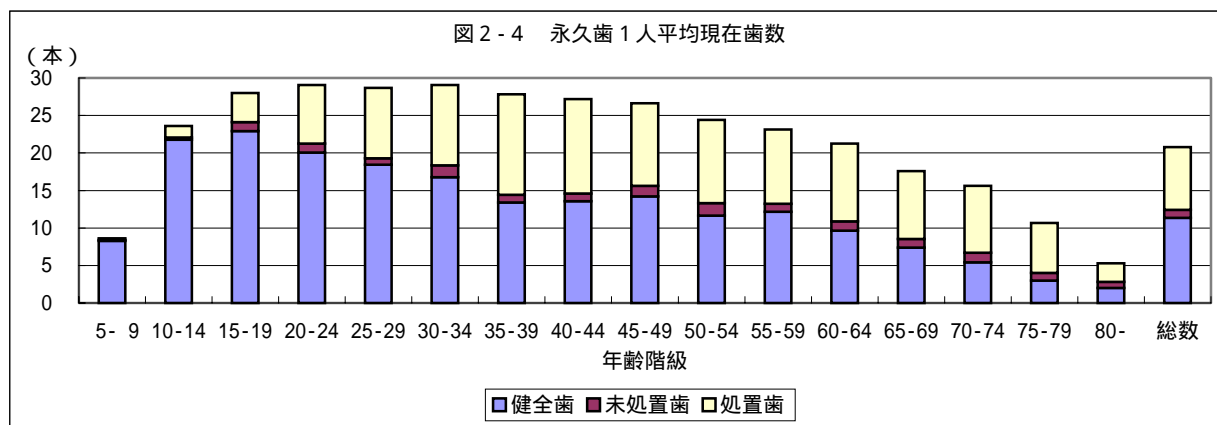
シーラント所有者率は、10-14歳で30.8%と最も高く、次いで5-9歳で17.2%、15-19歳で14.0%の順で高かった。20歳以上では0%か、それに近い値を示した。また、1人平均シーラント処置歯数についても、シーラント所有者率と同様の傾向を示しており、10-14歳で1.12本、5-9歳で0.34本、15-19歳で0.23本の順で高く、20歳以上では0本か、それに近い値を示した（図2-3）。



(4) 1人平均現在歯数

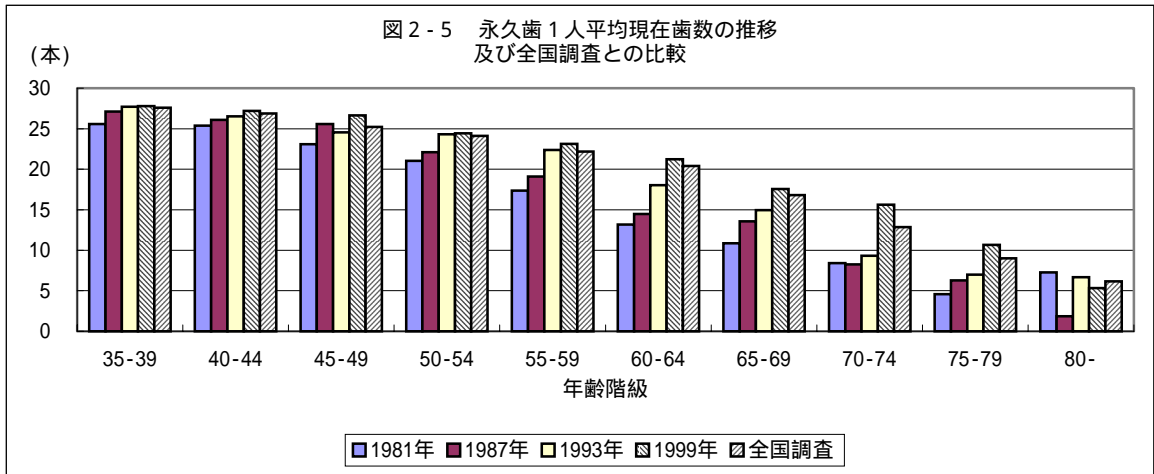
1人平均現在歯数は総数で20.78本であり、その内訳は健全歯11.36本、未処置歯1.07本及び処置歯8.34本であった。年齢階級別にみると、永久歯の萌出に伴い増加し、15-19歳で28.00本とほぼ第3大臼歯（智歯、親知らず）を除く永久歯が生え揃う状況にあった。20-24歳、25-29歳及び30-34歳は29本前後で推移し、その後、年齢階級が上がるにしたがって減少していた。

概ね20本の現在歯が保たれていれば、たいいていの食品を摂取するのに不自由ないことが報告されていることから、本県の歯科保健対策である「ヘルシースマイル2000プラン」では、60-64歳の1人平均現在歯数を評価指標のひとつとし、目標値を20本としている。今回の調査では21.25本と目標を達成した（図2-4）。



厚生労働省及び日本歯科医師会では、80歳まで20本の歯を保つことを目標とした「8020運動」を提唱している。今回の調査では、80歳の者（年齢階級75-84歳）の1人平均現在歯数が8.82本であり、達成すべき目標とは隔たりがあった。

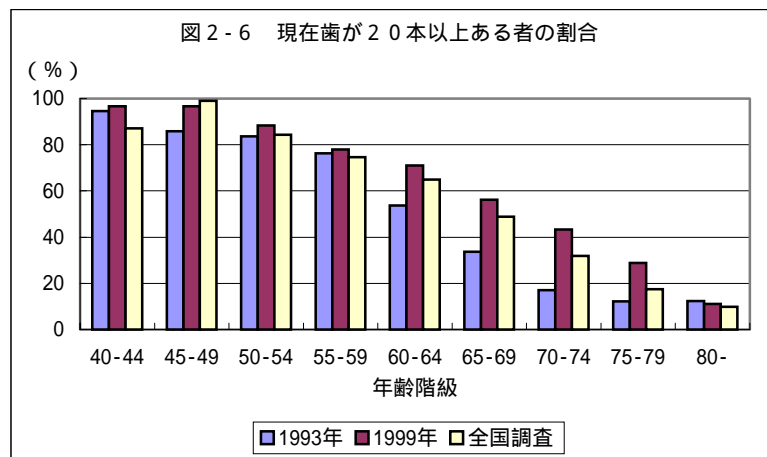
35歳以上の者について、年齢階級別に過去の調査と比較すると、80歳以上を除くすべての年齢階級において、1人平均現在歯数は増加していた。また、全国調査との比較においても、80歳以上を除く、すべての年齢階級において、新潟県の方が現在歯数が多かった。（図2-5）。



全国調査：平成11年歯科疾患実態調査 厚生省

(5) 現在歯を20本以上持つ者

現在歯を20本以上持つ者の割合は、年齢階級別にみると、55-59歳では77.9%とほぼ4人に3人の割合を保っていたが、それ以降は年齢階級が上がるにしたがって急激に減少し、70-74歳で43.3%と50%を切り、80歳以上では11.1%であった。また、80歳の者（年齢階級75-84歳）で現在歯を20本以上持つ者の割合は、23.0%であった。過去の調査と比較すると、80歳以上を除くすべての年齢階級において、現在歯を20本以上持つ者の割合は増加していた。

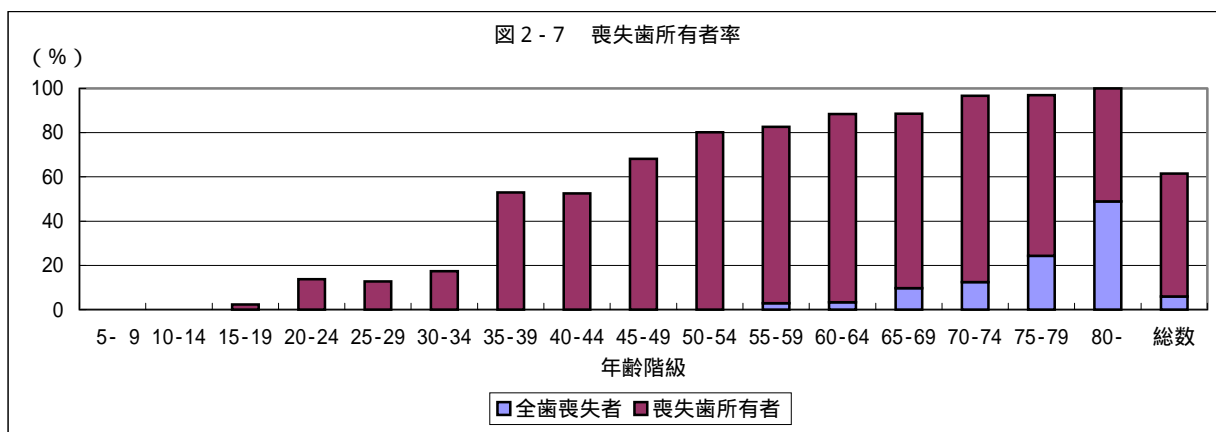


全国調査：平成11年歯科疾患実態調査 厚生省

また、全国調査との比較においては、45-49歳を除くすべての年齢階級において、新潟県の方が高い値を示した。(図 2 - 6)

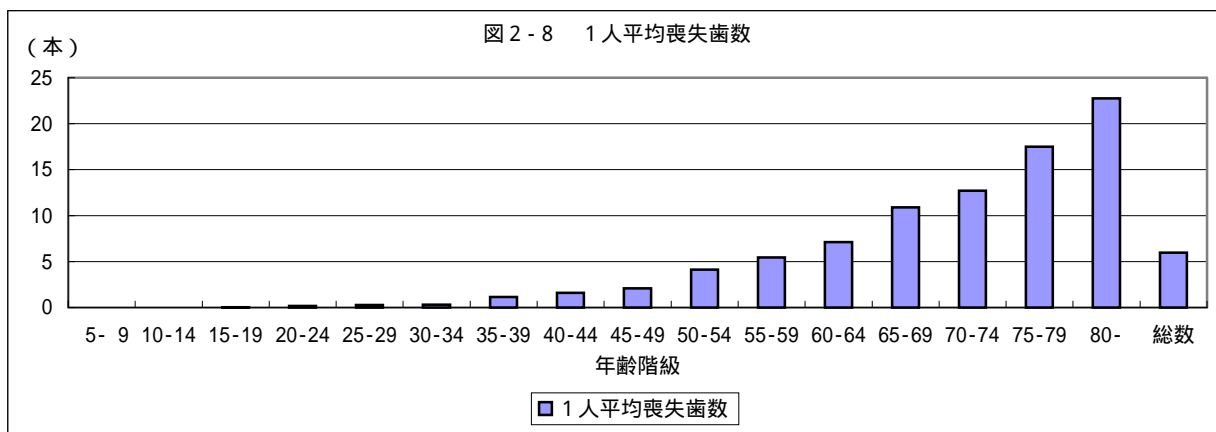
(6) 喪失歯所有者率

喪失歯所有者率は、総数で 61.5%である。年齢階級別にみると、ほぼ年齢階級が上がるにしたがって増加しており、35-39歳で53.0%と半数を超え、70-74歳以上の年齢階級では、100%またはそれに近い値を示していた。また、全歯喪失者（無歯顎者）は55-59歳ではじめて現れ、70-74歳で12.5%と10%を超え、80歳以上では半数近い48.9%に達していた(図 2 - 7)。



(7) 1人平均喪失歯数

1人平均喪失歯数は総数で5.96本であり、年齢階級別にみると、年齢階級が上がるにしたがって増加し、特に50-54歳以降では急激に増加していた(図2-8)。



ヘルシースマイル 2000 プランにおいて評価指標としている、20-24歳、30-34歳、40-44歳及び50-54歳の1人平均喪失歯数について、過去の調査と比較すると、すべての年齢階級において調査を重ねるごとに喪失歯数は減少しており、30-34歳及び

表 2-1 ヘルシースマイル2000プランの指標としている年齢階級の1人平均喪失歯数の年次推移及び全国調査との比較

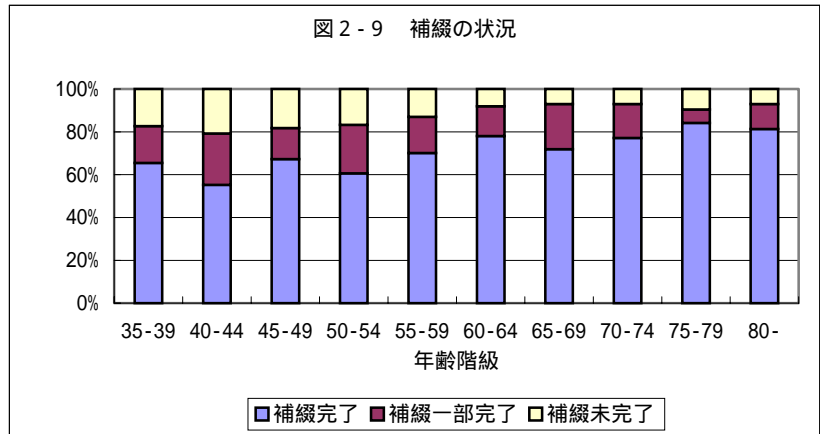
年齢階級	1981年	1987年	1993年	1999年	目標値	全国調査
20-24	0.75	0.63	0.22	0.17	0	0.15
30-34	1.65	1.53	1.10	0.30	1	0.57
40-44	2.57	2.44	2.30	1.59	2	1.84
50-54	6.94	6.63	4.28	4.13	4	4.37

全国調査：平成11年歯科疾患実態調査、厚生省

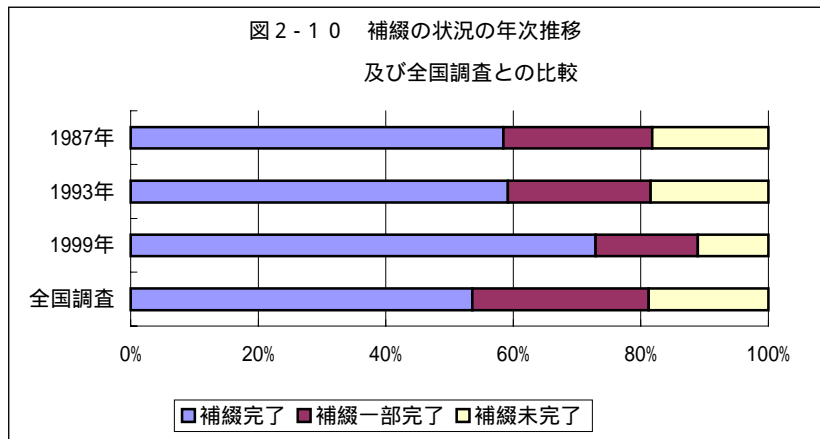
40-44歳は目標値に達し、20-24歳及び50-54歳はほぼ目標を達成した。また、全国調査との比較では、20-24歳は、ほぼ同値であり、30-34歳、40-44歳及び50-54歳の年齢階級においては新潟県の方が少なく、良好な状況であった(表2-1)。

## 2 補綴の状況（15歳以上）

補綴を必要とする者のうち補綴完了者の割合について年齢階級別にみると、35-39歳から50-59歳で約55～67%、55-59歳から80歳以上で約70～84%の値を示し、55歳未満の者より55歳以上の者の方が高かった（図2-9）。



過去の調査と比較すると、補綴完了者の割合は総数（15歳以上の者）で72.9%であり、調査を重ねる毎に改善し、前回調査よりも約14ポイント改善していた。また、全国調査との比較でも新潟県の方が約19ポイント高かった（図2-10）。

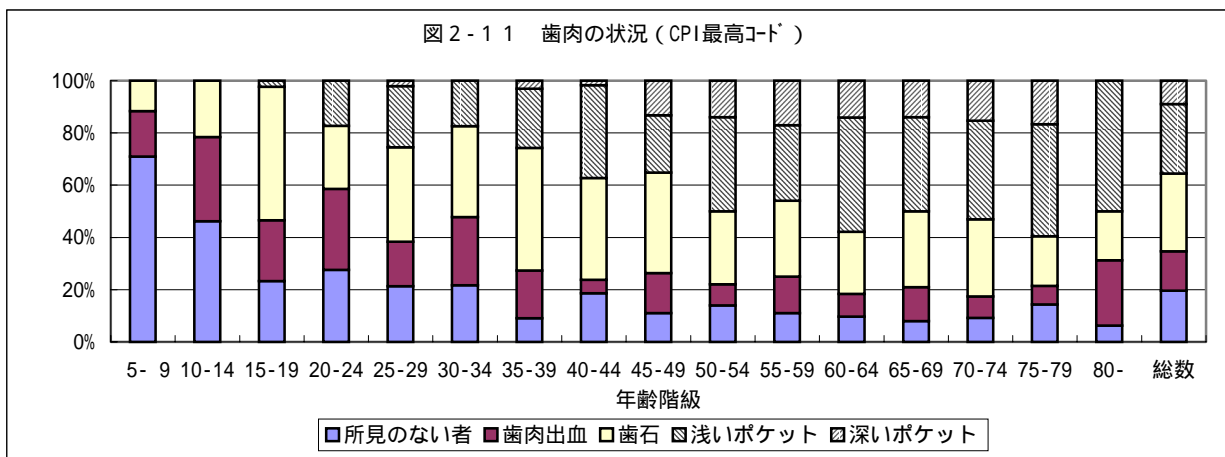


全国調査：平成11年歯科疾患実態調査、厚生省

## 3 歯肉の状況（5歳以上）

### (1) CPI最高コード（所見の最高値）

CPI最高コードについて、総数（対象歯の無い者を除く）でみると、所見のある者は80.3%であった。その内訳は、歯肉から出血がある者15.0%、歯石を有する者29.8%、浅い（4mm以上6mm未満）ポケットを有する者26.7%、深い（6mm以上）ポケットを有する者8.9%であった。



年齢階級別にみると、5-9歳から35-39歳では年齢階級が上がるにしたがい歯肉に所見のある者の

割合が増加する傾向にあった。また、60-64歳までの年齢階級では年齢階級が上がるにしたがい、ポケットを有する者の割合が増加する傾向にあった（図2-11）。

10歳刻みの年齢階級で全国調査と比較すると、35-44歳を除き、新潟県の方が「所見の無い者」の割合が高かった（表2-2）。

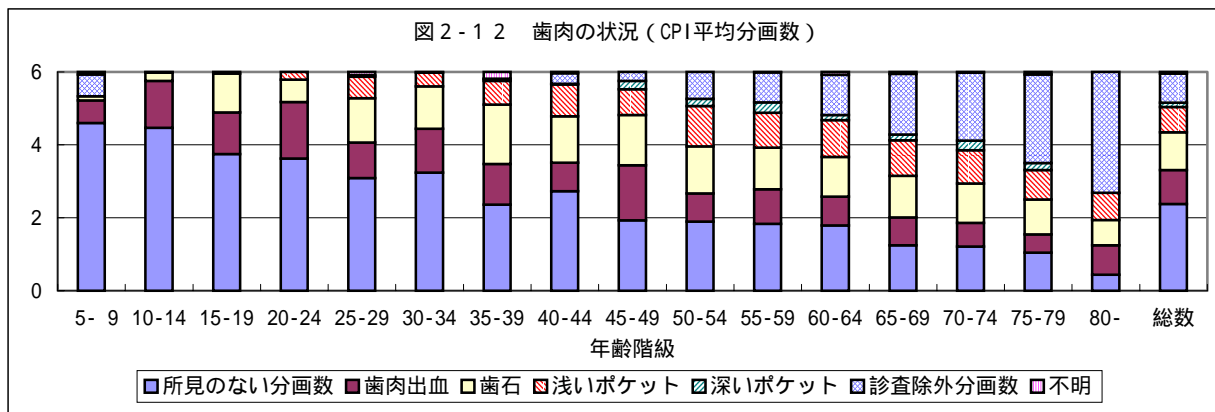
表2-2 歯肉の状況の全国調査との比較（CPI最高コード、10歳刻み）[率]（%）

年齢階級	調査名	所見の無い者	所見の最高値				
			総数	歯肉出血	歯石	浅いポケット	深いポケット
25-34	新潟県	21.5	78.5	21.5	35.5	20.4	1.1
	全国	20.8	79.2	17.1	40.6	19.9	1.7
35-44	新潟県	13.6	86.4	12.0	43.2	28.8	2.4
	全国	15.7	84.3	12.0	40.8	25.7	5.8
45-54	新潟県	12.4	87.6	11.9	33.3	28.8	13.6
	全国	10.3	89.7	9.5	36.1	33.7	10.4
55-64	新潟県	10.3	89.7	11.2	26.2	36.9	15.4
	全国	8.4	91.6	8.0	30.2	39.9	13.6
65-74	新潟県	8.6	91.4	10.6	29.3	36.9	14.6
	全国	6.2	93.8	9.0	26.1	44.3	14.5
75-	新潟県	12.1	87.9	12.1	19.0	44.8	12.1
	全国	8.7	91.3	7.9	27.5	42.1	13.7

新潟県：第4回新潟県民歯科疾患実態調査  
 全国：平成11年歯科疾患実態調査、厚生省

(2) CPI平均分画数

CPI平均分画数について、総数（対象歯の無い者を除く）でみると、所見を示す分画は2.54であった。その内訳は、歯肉から出血0.93、歯石1.04、浅い（4mm以上6mm未満）ポケット0.69、深い（6mm以上）ポケット0.13であった。年齢階級別の比較では、年齢階級が上がるにしたがい、所見の無い分画数が減少する傾向を示した。（図2-12）

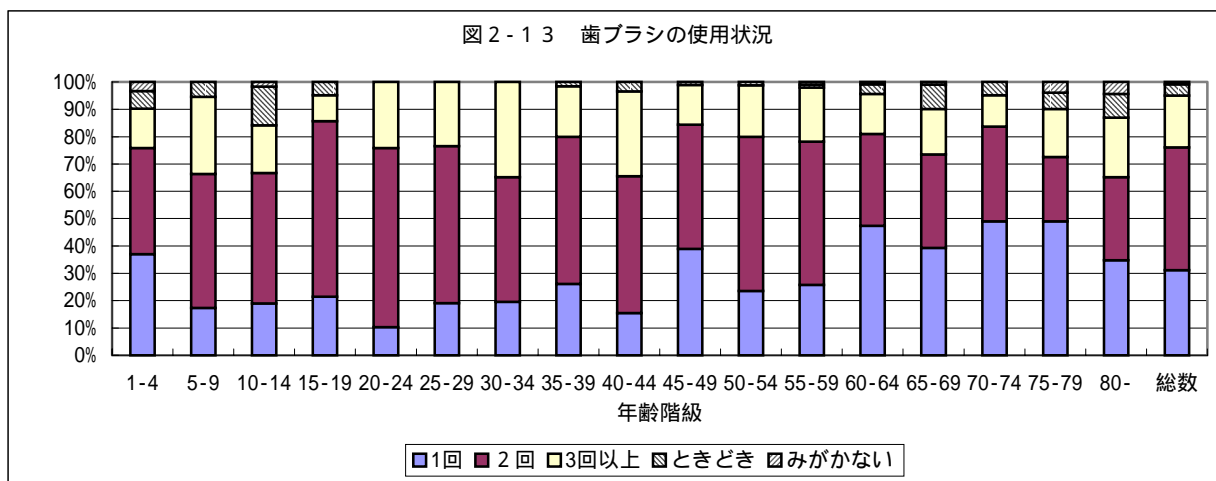


4 歯ブラシの使用状況

歯ブラシの使用状況は、総数（無歯顎者を除く）でみると、毎日みがく者は95.1%、ときどきみがく者4.2%、みがかない者0.8%であった（図2-13）。

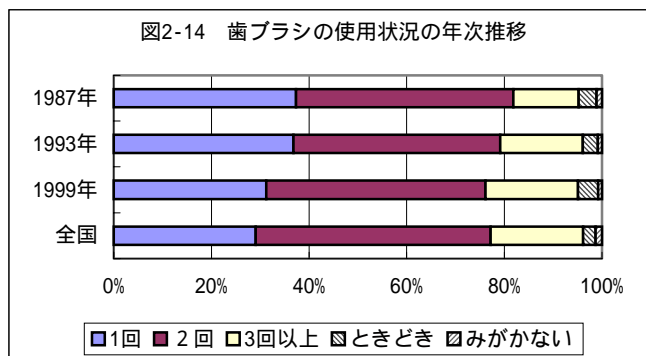


図2-13 歯ブラシの使用状況



また、過去の調査と比較すると、毎日みがく者の割合は、ほぼ同じであるが、内訳をみると、1日1回みがく者の割合は減少し、1日3回以上みがく者の割合が増加していた。全国調査との比較では、新潟県の方が1日1回みがく者の比率が高く、1日2回みがく者の比率が低い状況であった(図2-14)。

図2-14 歯ブラシの使用状況の年次推移

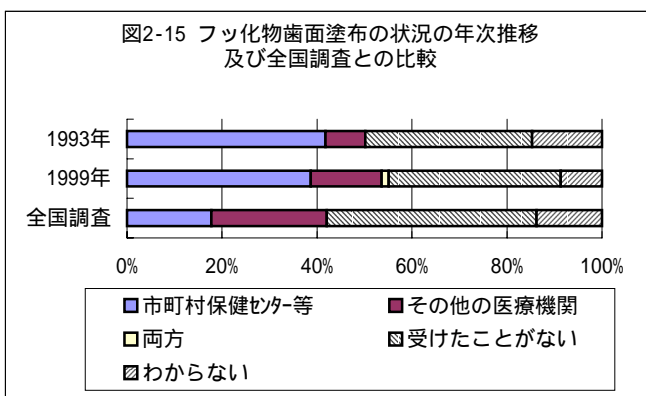


全国調査：平成11年歯科疾患実態調査、厚生省

5 フッ化物歯面塗布の状況(15歳未満)

15歳未満の者に対し、本人または保護者にフッ化物歯面塗布経験の有無について質問した。総数では、53.5%が受けたことがあると回答しており、その内訳を実施場所別にみると、市町村保健センター等 37.6%、その他医療機関 14.6%、両方 1.4%であった。前回の調査と比較すると、受けたことのある者の割合は 3.3ポイント高かった。また、全国調査と比較しても 11.5ポイント高かった(図2-15)。

図2-15 フッ化物歯面塗布の状況の年次推移及び全国調査との比較



両方：「市町村保健センター等」及び「その他医療機関」の両方においてフッ化物歯面塗布の経験がある者  
 全国調査：平成11年歯科疾患実態調査、厚生省

## 第2節 歯科保健アンケート調査

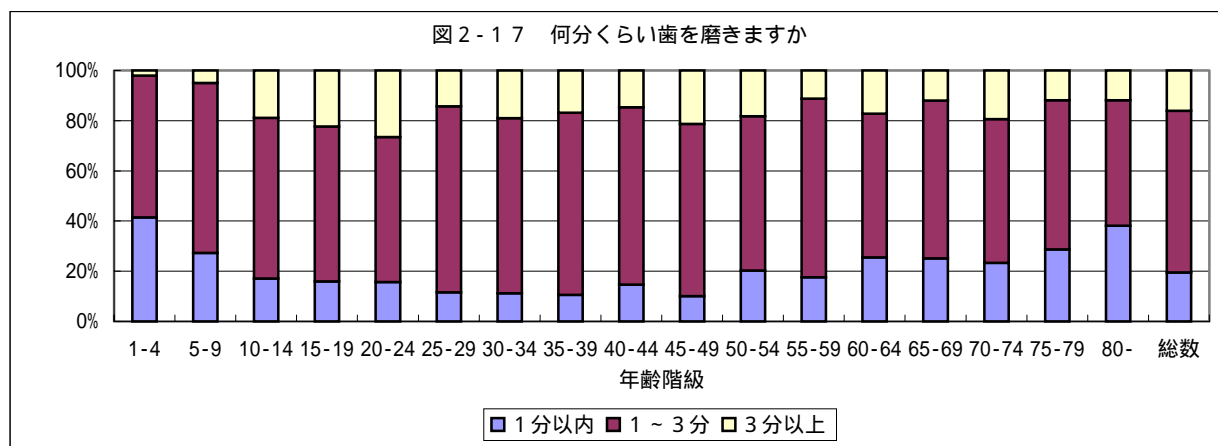
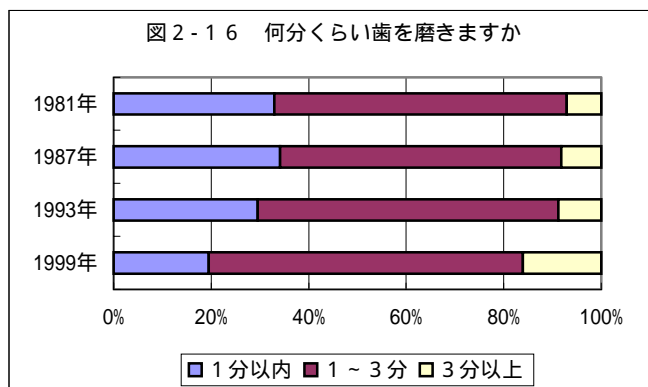
質問紙法により、歯科保健に関する行動、口腔内状態及び意識等に関する調査を行った。

### 1 全年齢を対象とした質問

#### (1) 歯みがき時間

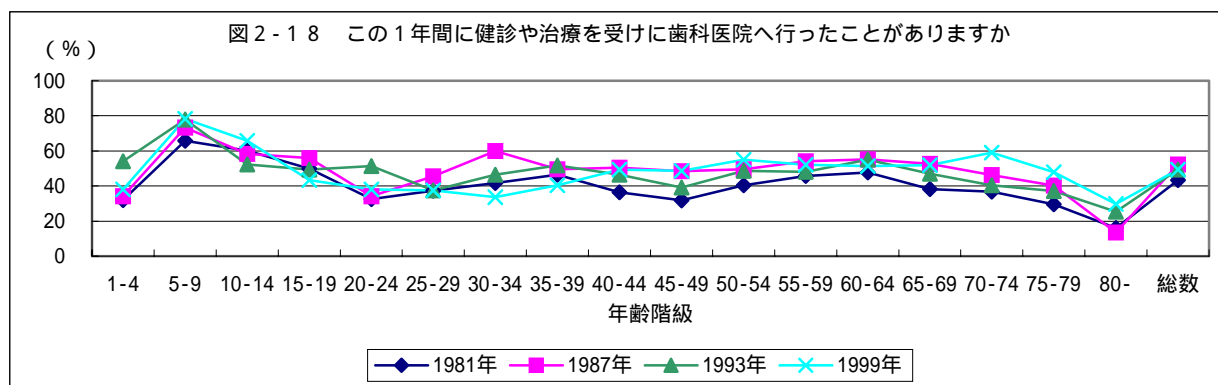
総数（無歯顎者を除く）でみると、1分以内の者19.5%、1～3分の者64.4%、3分以上の者16.1%であり、過去3回の調査に比べ1～3分の者及び3分以上の者の割合が増加していた（図2-16）。

年齢階級別にみると、歯みがき時間は、成人に達するまでは年齢階級が上がるにしたがって3分以上の者の割合が増加していた（図2-17）。



#### (2) 最近1年間の歯科医院への受診状況

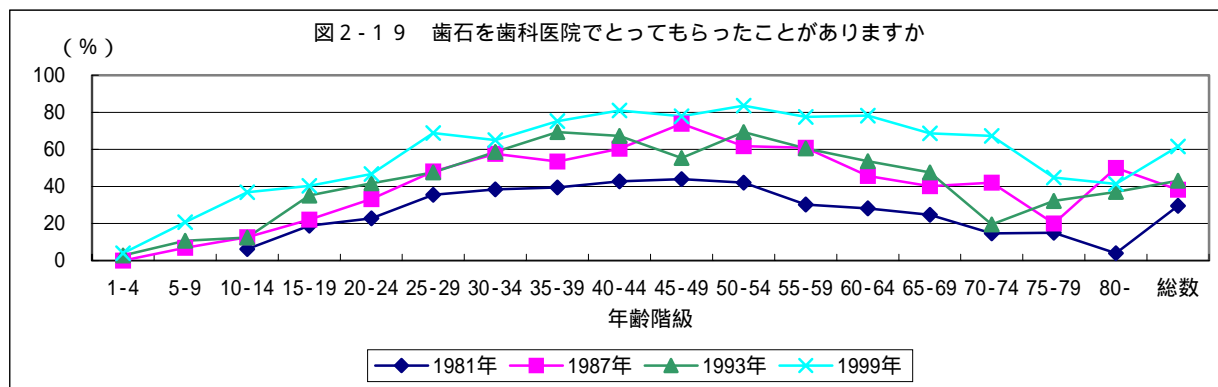
「この1年間に健診や治療を受けに歯科医院へ行ったことがありますか。」という質問に対する回答では、総数でみると「はい」と答えた者は49.3%であり、前回調査と同値であった（図2-18）。



#### (3) 歯石除去の経験

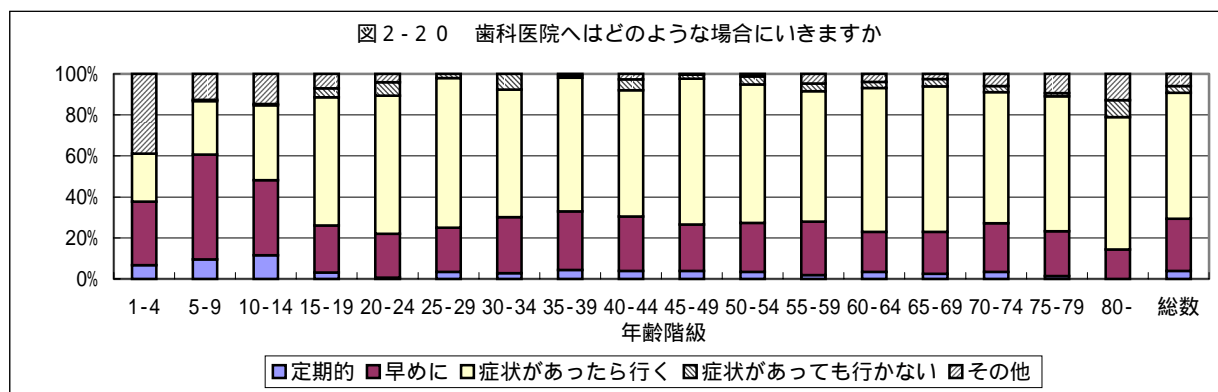
「歯石を歯科医院でとってもらったことがありますか。」という質問に対する回答では、総数（無歯顎者を除く）でみると、「定期的にとってもらっている」者3.9%、「とってもらっているが

定期的でない」者57.6%、「とってもらったことがない」者33.2%、「わからない」者5.3%であった。過去の調査との比較では、ほとんどの年齢階級で、「定期的または、不定期に歯石をとってもらったことがある」者は、調査を重ねるごとに増加した（図2-19）。



#### (4) 歯科医院への受診行動

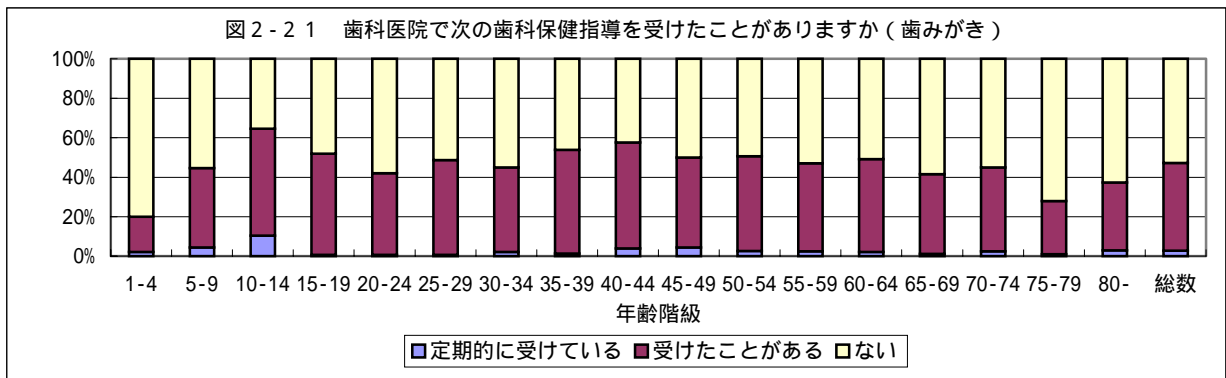
「歯科医院へはどのような場合に行きますか。」という質問に対する回答では、総数でみると、「気になるところがなくとも、定期的に行くようにしている」者3.8%、「気になるところがあると、早めに行くようにしている」者25.5%、「痛いなど、悪い症状があったら行く」者61.5%、「痛いなど、悪い症状があっても行かない（行けない）」者3.3%、その他5.9%であった（図2-20）。



#### (5) 歯科医院で受けた歯科保健指導の経験

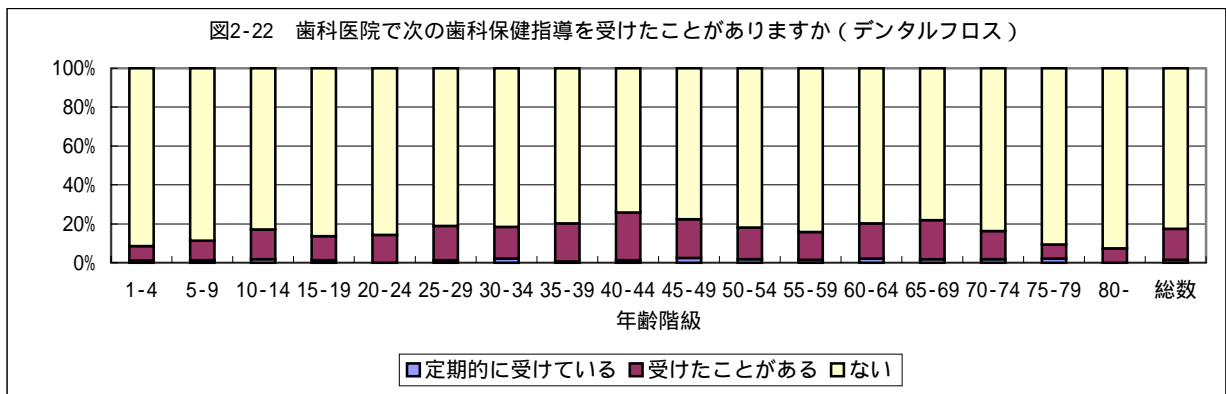
##### ア 歯みがき

「歯科医院で、次の歯科保健指導を受けたことがありますか（歯みがき）。」という質問に対する回答では、総数（無歯顎者を除く）でみると、「定期的を受けている」者2.8%、「受けたことはあるが定期的ではない」者44.5%であった。年齢階級別にみると、「定期または不定期に指導を受けたことがある」者は、10-14歳までは、年齢階級が上がるにしたがい増加し10-14歳で64.6%となり、15-19歳から70-74歳では40~60%の値を示した（図2-21）。



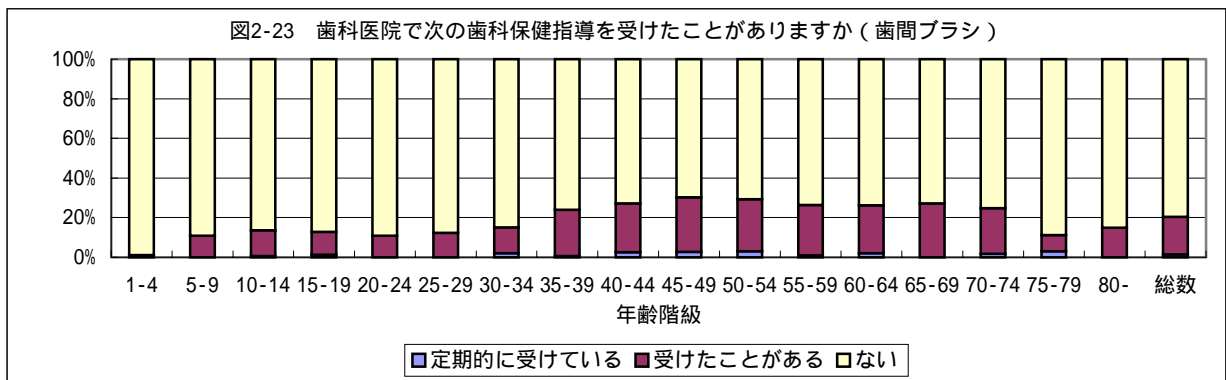
### イ デンタルフロス

「歯科医院で、次の歯科保健指導を受けたことがありますか（デンタルフロス）」という質問に対する回答では、総数（無歯顎者を除く）でみると、「定期的を受けている」者1.5%、「受けたことはあるが定期的ではない」者15.9%であった（図 2 - 2 2）。



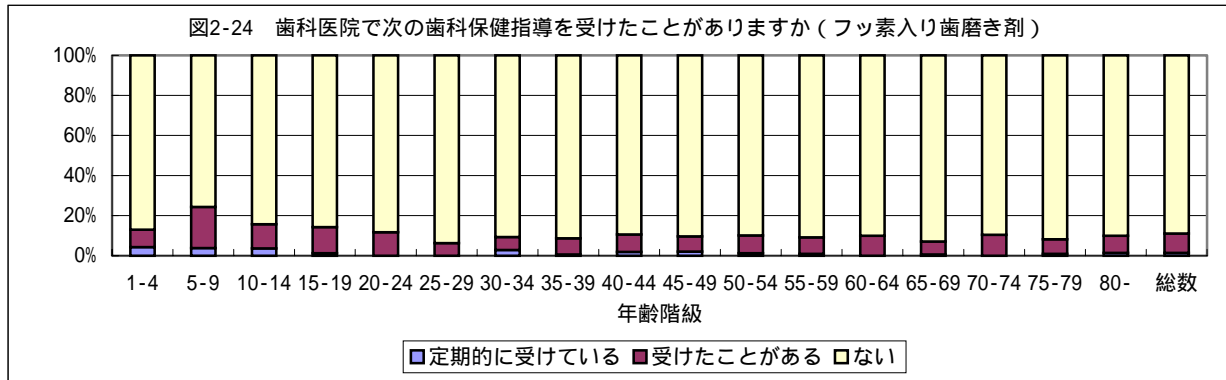
### ウ 歯間ブラシ

「歯科医院で、次の歯科保健指導を受けたことがありますか（歯間ブラシ）」という質問に対する回答では、総数（無歯顎者を除く）でみると、「定期的を受けている」者1.4%、「受けたことはあるが定期的ではない」者19.1%であった。年齢階級別にみると、「定期または不定期に指導を受けたことがある」者は、35-39歳から70-74歳では20%以上の値を示し、他の年齢階級は20%未満であった（図 2 - 2 3）。



## I フッ素入り歯磨き剤

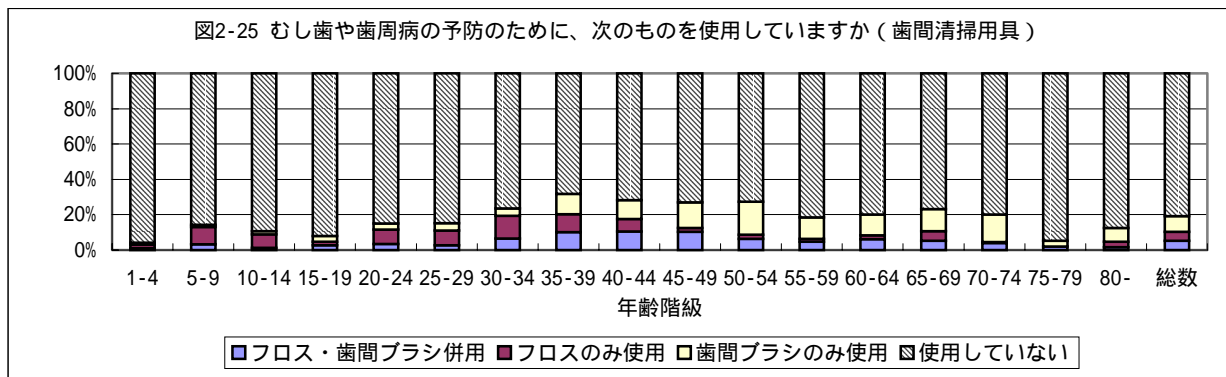
「歯科医院で、次の歯科保健指導を受けたことがありますか（フッ素入り歯磨き剤）。」という質問に対する回答では、総数（無歯顎者を除く）でみると、「定期的に受けている」者1.5%、「受けたことはあるが定期的ではない」者9.5%であった。年齢階級別にみると、「定期または不定期的に指導を受けたことがある」者は、1-4歳から15-19歳では20歳以上に比べ高い値を示していた（図2-24）。



## (6) 歯間清掃用具及び歯磨き剤の使用状況

### A 歯間清掃用具の使用状況

「むし歯や歯周病の予防のために、次のものを使用していますか（歯間清掃用具）。」という質問に対する回答では、総数（無歯顎者を除く）でみると、19.2%が「使用している」と回答しており、その内訳は「デンタルフロスと歯間ブラシを併用している」者5.3%、「デンタルフロスのみ使用している」者4.9%、「歯間ブラシのみ使用している」者9.0%であった。また、年齢階級別にみると、「歯間清掃用具を使用している」者の割合について、15-19歳から35-39歳では、年齢階級が上がるにしたがい高い値を示し、35-39歳で31.8%、40-49歳から70-74歳では20~30%の値を示した。使用している歯間清掃用具の種類をみると、1-4歳から30-34歳ではデンタルフロスが多く、35-39歳以降では歯間ブラシが多かった（図2-25）。



全国調査との比較では、65-74歳を除き、新潟県の方が「歯間清掃用具を使用している」者の割合が高かった（表2-3）。

表2-3

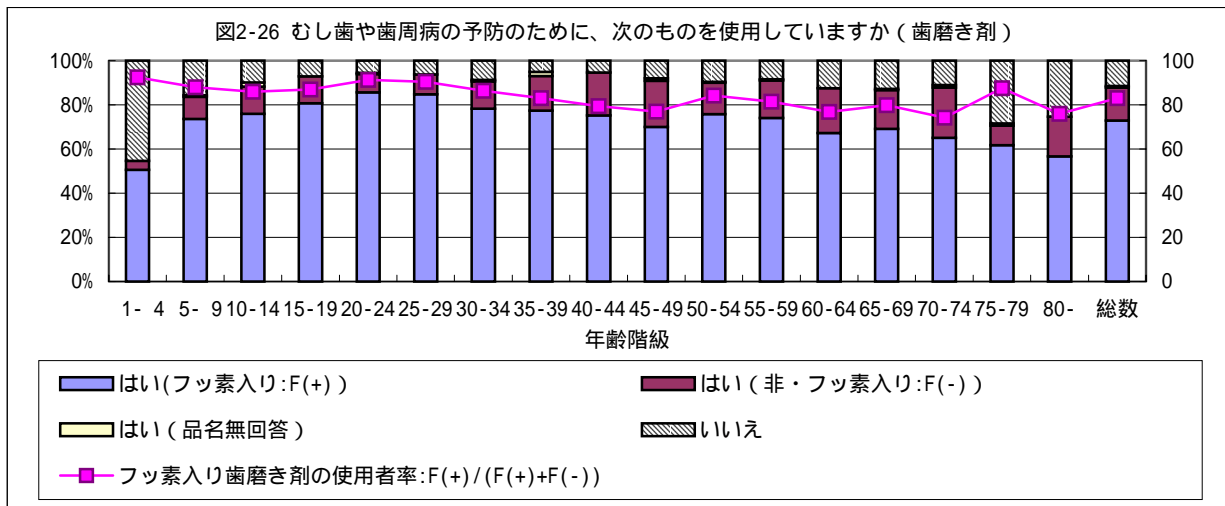
歯間清掃用具の使用している者の割合の比較（新潟県-全国）

年齢階級	新潟県	全国
25-34	19.3	27.0
35-44	30.0	34.1
45-54	27.1	30.6
55-64	19.3	30.8
65-74	21.7	21.6

全国：平成11年厚生省保健福祉動向調査  
不詳を除いて集計

イ 歯磨き剤の使用状況

「むし歯や歯周病の予防のために、次のものを使用していますか（歯磨き剤）」という質問に対する回答では、総数（無歯顎者を除く）でみると、「使用している」者 88.5%、その内訳は「フッ素入り歯磨き剤」72.9%、「非・フッ素入り歯磨き剤」15.0%、「品名無回答」0.7%であった。年齢階級別にみると、「歯磨き剤を使用している」者の割合について、15-19 歳までは年齢階級が上がるにしたがい増加し、15-19 歳で 92.9%、20-24 歳から 70-74 歳では 85~95%であった。また、歯磨剤使用者におけるフッ素入り歯磨き剤の使用者率は、総数（無歯顎者除く）でみると 83.0%であり、フッ素入り歯磨き剤の市場占有率（シェア）77%より高い値を示した。年齢階級別にみると、30-34 歳までは 85~95%であり、35-39 歳から 65-69 歳では 75~85%であった（図 2-26）。

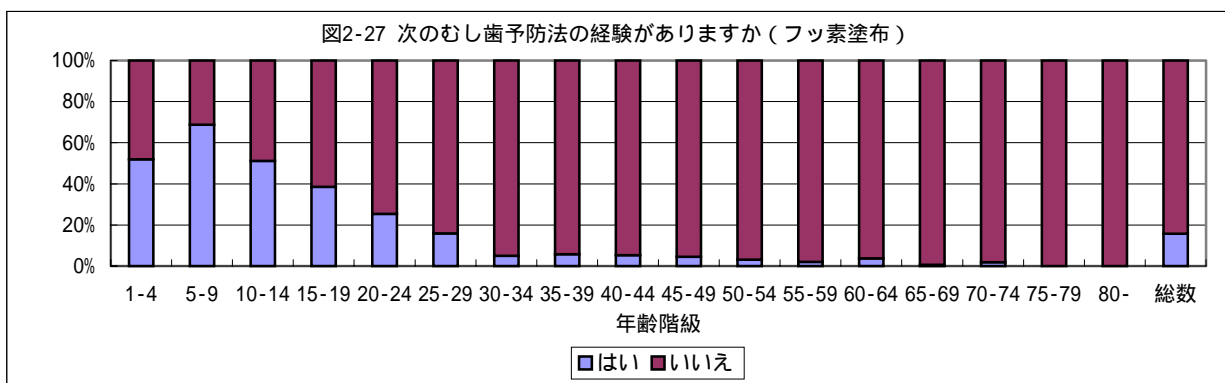


注) フッ素入り歯磨き剤の市場占有率（シェア）：平成11年調査、ライオン歯科衛生研究所

(7) むし歯予防法の経験

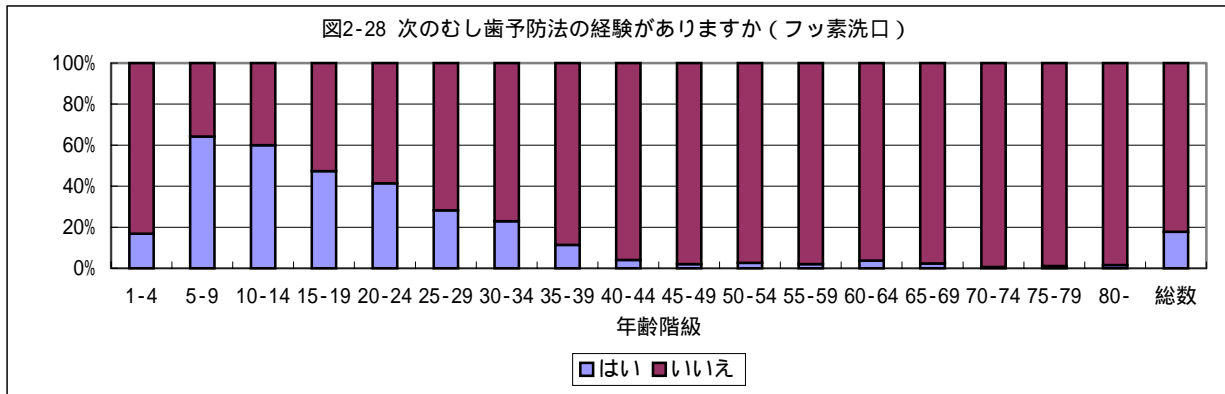
ア フッ素塗布

「次のむし歯予防法の経験がありますか（フッ素塗布）。保育所、幼稚園、学校で実施したのも含みます。」という質問に対する回答では、総数（無歯顎者を除く）でみると、15.7%が「経験がある」と回答していた。年齢階級別にみると、「経験がある」者の割合は、5-9 歳が最も高く、その後 30-34 歳までは、年齢階級が上がるにしたがい低い値を示し、35-39 歳以降では 0~6%であった（図 2-27）。



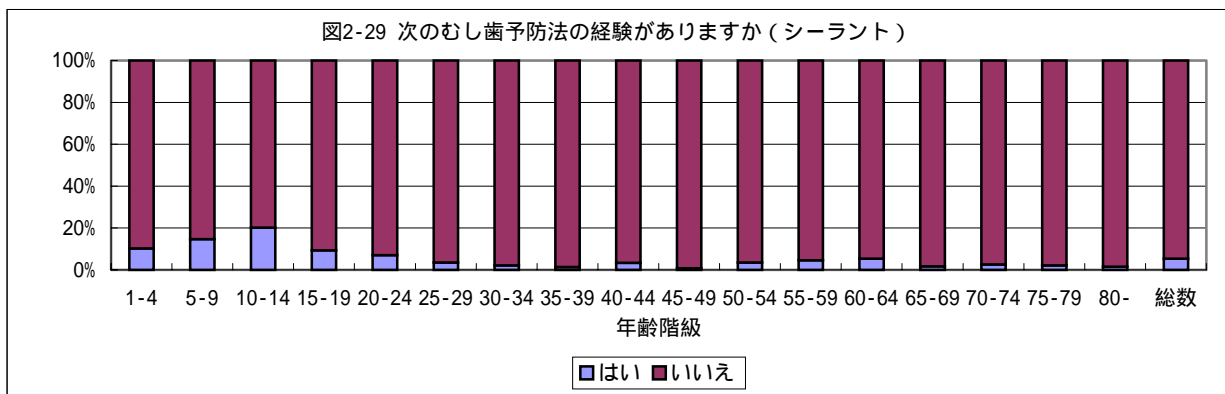
## イ フッ素洗口

「次のむし歯予防法の経験がありますか（フッ素洗口）。保育所、幼稚園、学校で実施したのも含みます。」という質問に対する回答では、総数（無歯顎者を除く）でみると、17.8%が「経験がある」と回答していた。年齢階級別にみると、「経験がある」者の割合は、5-9歳が最も高く、その後45-49歳までは、年齢階級が上がるにしたがい低い値を示した（図2-28）。



## ウ シーラント

「次のむし歯予防法の経験がありますか（シーラント）。保育所、幼稚園、学校で実施したのも含みます。」という質問に対する回答では、総数（無歯顎者を除く）でみると、5.4%が「経験がある」と回答していた。年齢階級別にみると、「経験がある」者の割合は、10-14歳以下の年齢階級では年齢階級が上がるにしたがい高い値を示し、10-14歳を頂点として35-39歳までは、年齢階級が上がるにしたがい低い値を示した（図2-29）。



## 2 10歳以上を対象とした質問

### (1) 歯科疾患に起因する生活上の困りごと

「この1年間で歯や歯ぐきのことが原因で、以下に示す生活上の困りごとがありましたか。（複数回答）」という質問に対する回答では、総数でみると、29.8%の者が「困りごとがある」と回答していた。「仕事・家事・学業・趣味などに支障があったことがある」者4.8%、「よく眠れなかったことがある」者5.6%、「おいしく食事ができなかったことがある」者22.5%であった。年齢階級別にみると、40-44歳から75-79歳で、「困りごとがある」者は、30%以上の値を、「おいしく食事ができなかったことがある（食事への支障）」者は、20%以上の値を示した（表2-4）。

表 2 - 4

この1年間で歯や歯ぐきのことが原因で、生活上の困りごとがありましたか(複数回答)[率] (%)

年齢階級	困りごとがある					困りごとなし
	仕事・学業等への支障	睡眠への支障	食事への支障	その他		
10-14	18.3	3.3	3.3	14.4	2.0	81.7
15-19	11.8	2.1	2.8	10.4	0.7	88.2
20-24	26.1	3.0	7.5	16.4	5.2	73.9
25-29	23.6	7.1	7.9	17.9	0.7	76.4
30-34	23.4	2.2	6.6	14.6	2.9	76.6
35-39	17.9	5.3	4.6	12.6	1.3	82.1
40-44	34.0	6.9	4.9	24.3	6.9	66.0
45-49	36.2	5.2	7.0	28.8	2.6	63.8
50-54	31.3	4.1	6.5	23.5	4.6	68.7
55-59	37.8	6.7	4.1	28.5	5.2	62.2
60-64	35.4	6.8	4.7	25.0	5.2	64.6
65-69	36.1	6.0	7.7	30.1	2.2	63.9
70-74	39.6	6.0	7.7	25.8	7.7	60.4
75-79	35.5	1.6	4.8	32.3	2.4	64.5
80-	27.3	2.5	2.5	24.8	2.5	72.7
総数	29.8	4.8	5.6	22.5	3.6	70.2

## (2) 口腔内の悩みごと

「現在、歯や口の中に悩みごとがありますか。(複数回答)」という質問に対する回答では、総数で見ると、54.5%が「悩みごとあり」と回答していた。

表 2 - 5

現在、歯や口の中に悩みごとがありますか(複数回答)[率]

(%)

年齢階級	悩みごとがある										悩みなし
	歯痛	出血	口臭	歯が浮いた感じ	歯ぐきの赤い腫れ	固いものがかみにくい	歯並び噛み合わせ	顎関節が痛い	その他		
10-14	33.6	10.5	10.5	7.2	0.0	2.6	1.3	14.5	2.0	2.0	66.4
15-19	50.0	18.3	13.4	6.3	4.2	3.5	2.8	18.3	4.9	4.9	50.0
20-24	50.4	20.4	13.1	8.8	1.5	2.2	1.5	16.1	8.0	6.6	49.6
25-29	54.3	12.9	17.9	5.7	1.4	1.4	1.4	19.3	3.6	8.6	45.7
30-34	55.2	27.6	22.4	13.4	3.0	2.2	1.5	12.7	3.7	4.5	44.8
35-39	56.6	22.4	19.1	19.1	4.6	3.9	9.9	9.9	3.9	7.9	43.4
40-44	58.2	19.2	19.9	18.5	5.5	7.5	6.8	8.2	2.1	8.9	41.8
45-49	59.6	21.1	21.5	21.5	5.7	3.5	16.7	12.3	1.3	4.4	40.4
50-54	62.7	25.0	22.3	15.9	5.0	4.1	18.6	10.5	0.9	5.5	37.3
55-59	59.8	21.6	18.0	13.4	5.2	4.1	25.8	8.8	0.5	10.3	40.2
60-64	59.3	16.4	18.5	22.2	4.8	6.9	22.8	7.4	0.5	9.5	40.7
65-69	54.1	11.6	11.6	14.4	5.5	3.9	29.8	8.3	2.8	5.5	45.9
70-74	59.6	11.2	11.2	9.6	2.7	9.0	29.8	8.5	1.1	11.7	40.4
75-79	49.2	8.1	6.5	5.6	2.4	5.6	29.8	7.3	1.6	7.3	50.8
80-	40.3	5.0	0.0	4.2	0.8	4.2	25.2	5.0	0.8	11.8	59.7
総数	54.5	17.2	15.7	13.2	3.7	4.4	15.8	11.0	2.3	7.2	45.5



悩みごとの内容の上位3位は、「歯が痛んだり、しみたりする（歯痛）」17.2%、「固いものがかみにくい」15.8%、「歯みがきをすると、血がでる（出血）」15.7%であった。年齢階級別にみると、「悩みごとあり」と回答した者の割合については、10-14歳が33.6%と最も少なく、50-54歳が62.7%と最も多くなり、80歳以上では40.3%となっている。「固いものがかみにくい」者の割合については、45-49歳から65-69歳では、年齢階級が上がるにしたがい増加し65-69歳で29.8%となり、70-74歳以上では25～30%の値を示した。「歯みがきをすると、血がでる（出血）」者の割合については、25-29歳から60-64歳の年齢階級に多く20%前後の値を示した。「口臭がある（口臭）」者の割合については、30-34歳から65-69歳の年齢階級に多く13～23%の値を示した（表2-5）。

### 3 20歳以上を対象とした質問

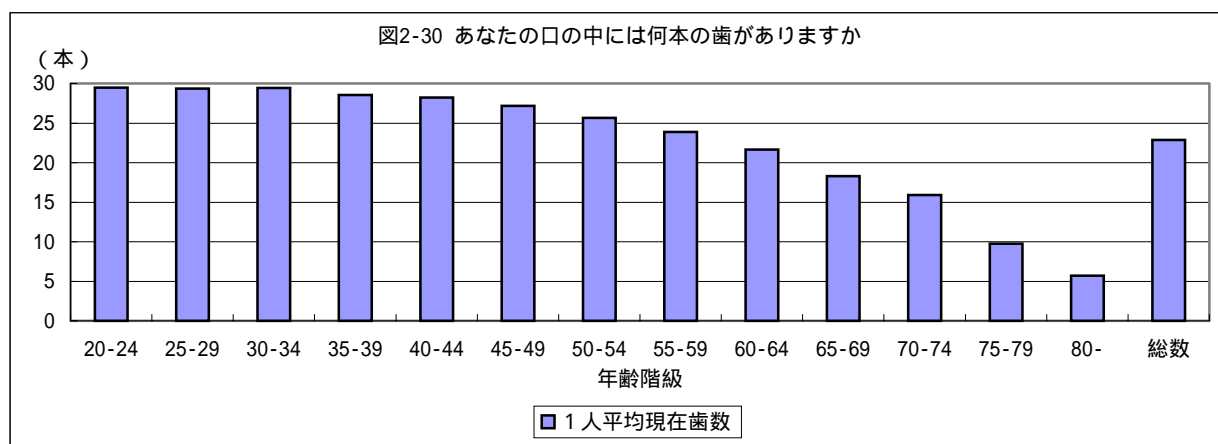
従来、歯科疾患に関する実態調査は、口腔診査のみによる方式で行われてきた。しかし、高い受診率が確保されていない状況下では、現在歯数の多い人が受診する傾向にあるなど、サンプリングバイアスが生じやすいという欠点が指摘されている。近年、質問紙を用いて口腔健康状態を把握する方法が開発されつつあり、歯科健診に比べて高い回収率が期待できることから、前述したバイアスが生じにくいという利点を有している。

以上の背景を踏まえ、第4回県民歯科疾患実態調査においては、現在歯数について歯科健診（口腔診査）による調査に加え、質問紙による調査を併用することし、20歳以上を対象として「あなたの口の中には何本の歯がありますか。」という質問を行った。…巻末 参考資料 参照

#### (1) 現在歯数

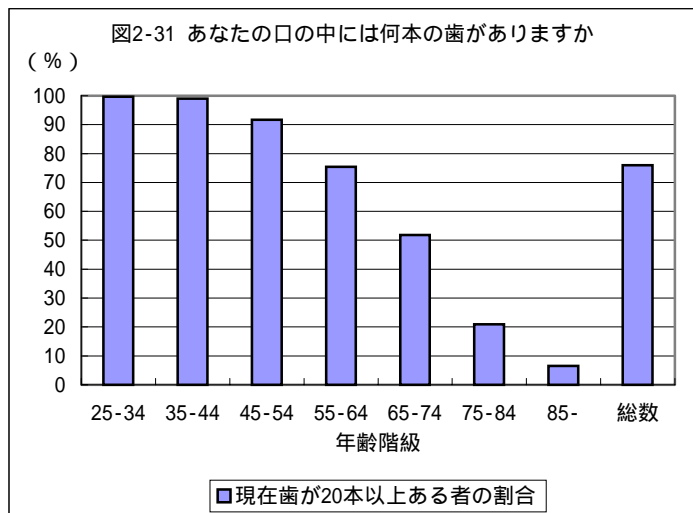
##### ア 1人平均現在歯数

1人平均現在歯数は、年齢階級別にみると、20-24歳、25-29歳及び30-34歳は29本以上の値を示し、その後、年齢階級が上がるにしたがって減少していった。本県の歯科保健施策である「ヘルシースマイル2000プラン」では、60-64歳の1人平均現在歯数を評価指標のひとつとし、目標値を20本としている。今回の調査では、21.65本と目標を達成した（図2-30）。



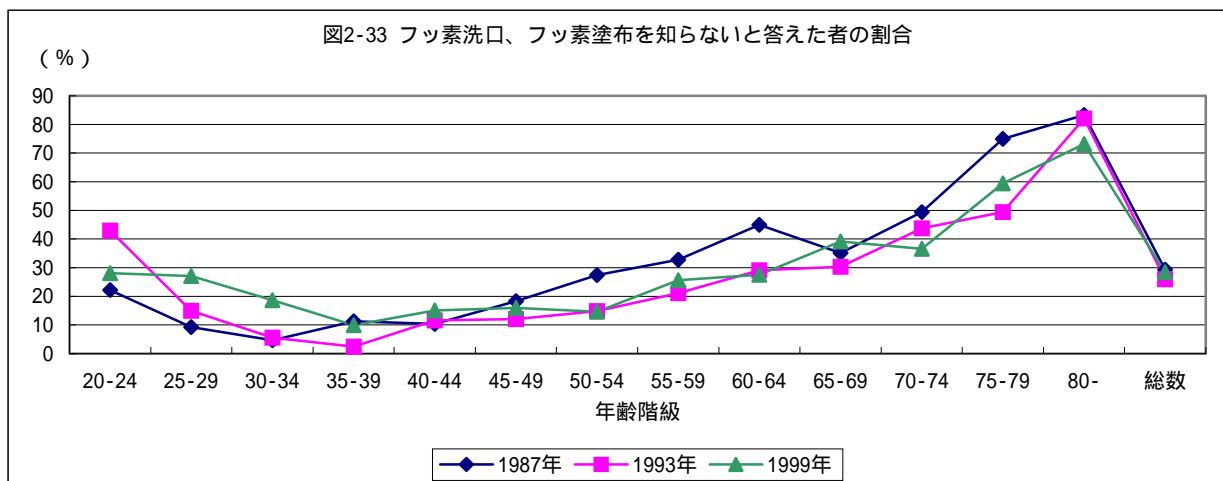
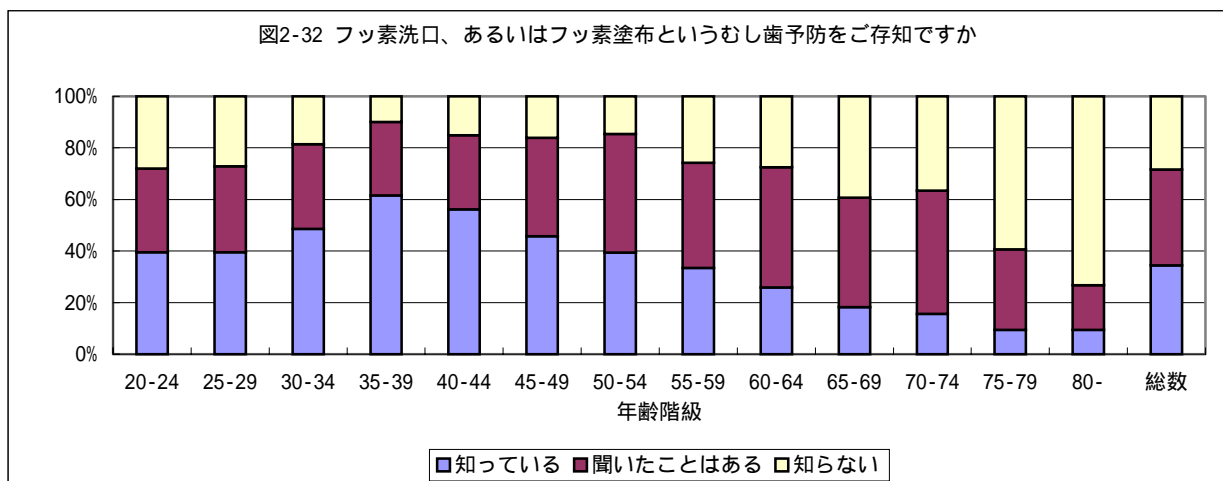
イ 現在歯が20本以上ある者

現在歯を20本以上持つ者の割合を、年齢階級別にみると、25-34歳及び35-44歳では99%以上の値を示し、それ以降は年齢階級が上がるにしたがい減少し、55-64歳では75.4%、65-74歳で51.8%、75歳-84歳では21.0%であった(図2-31)。



(2) フッ素洗口及びフッ素塗布の認知

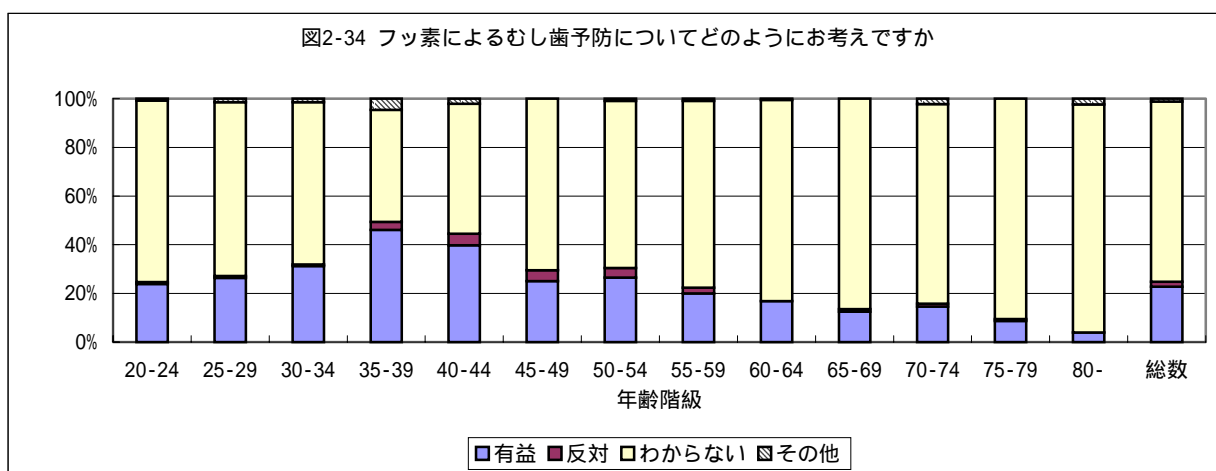
「フッ素洗口、フッ素塗布というむし歯予防をご存知ですか。」という質問に対する回答では、総数では、「知っている」と答えた者34.4%、「聞いたことはあるがよくわからない」と答えた者37.2%、「知らない」と答えた者28.4%であった。年齢階級別にみると、35-39歳の各年齢階級が「知っている」と答えた者の割合が最も高く61.6%を示し、それ以降、年齢階級が上がるにしたがい低くなる傾向にあった(図2-32)。



第2回調査（1987年）及び第3回調査（1993年）との比較を図2-33に示した。なお、第2回調査（1987年）では、同じ質問について「知っている」と「知らない」の二者択一で回答を求めたため、「知らない」と回答した者の割合について比較した。

### (3) フッ素によるむし歯予防についての認識

「フッ素によるむし歯予防についてどのようにお考えですか。」という質問に対する回答では、総数で見ると、「むし歯予防に有益なものであると思う」者22.8%、「むし歯予防に利用することには反対である」者2.0%、「詳しいことはよくわからない」者74.0%、その他1.2%であった。年齢階級別にみると、「有益と思う」者の割合は、20-24歳から35-39歳では、年齢階級が上がるにしたがって高くなる傾向にあり35-39歳では46.1%を示した。一方、反対であると答えた者の割合は、最も高い35-39歳で4.6%であった（図2-34）。



また、有益と思うと答えた者の割合について、第2回調査（1987年）及び第3回調査（1993年）との比較を図2-35に示した。全体では第3回調査（1993年）23.1%、今回調査22.8%でほぼ同値であった。

